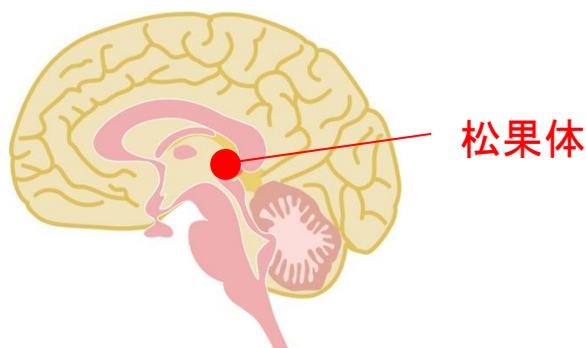




マンガ「三つ目がとおる」の写楽くんや「3×3 EYES」の三只眼みたいに、一部のトカゲやカエルのおでこに「**頭頂眼**」(とうちょうがん)と呼ばれる第三の眼が存在します。この第三の眼は光を感じ取り、体内時計に関係しているといわれております。



ところで…ヒトで体内時計というと「**松果体**」という内分泌(ホルモン)器官が脳の中にありますね。この「**松果体**」からは「**メラトニン**」というホルモンが分泌されており、昼間は少なく、夜に多く分泌され、睡眠のリズム・体内時計のリズムに関係しているとされております。このメラトニンの受容体にくっついて睡眠を促す薬に「**ロゼレム®**」というお薬があり、実際に不眠症の治療に使われております。

「**頭頂眼**」と「**松果体**」はもともと同じものであったと考えられております。三つ目どころか大昔の生物は四つ目だったそうです。外側眼という二つの眼が現在の視力を司る「いわゆる眼」になり、二つあった**頭頂眼**の片方が脳の奥の方に埋もれていき、残った**頭頂眼**は多くの生物で退化していきました。現代でも**頭頂眼**を持つ生物では頭蓋骨に穴が空いており、すぐ近くに「**松果体**」が存在するようです。

「第三の眼」が存在したことは生物の進化の過程で不思議なことではなく、写楽くんや三只眼のように超能力が使えるようになる訳ではなく、天津飯のように気功砲も打てません。残念ながら。